

## B-52 電気洗たく機による羊毛の風合劣化(Ⅱ)

三重大学 〇響田京子

目的 全自動直バネ非自動型洗たく機，4機種6条件により，くり返し30回の洗淨を行なった羊毛モスリンの風合劣化を，光反射法によるしわの測定(古里，日下部による)により補えた。また，一対比較法による官能検査を行なった。

方法 計測は城南製作所製可変角度三次元光沢計を使用，試料長 $20 \times 5$  cm，バイヤス方向とし， $8$  cm/min. で移動する水平台上に試料をおき，入射角 $70^\circ$ ，反射角 $70^\circ$ の正反射位置のしわ反射率曲線を求め，その波形長，標準偏差，変動率， $\pm 3\sigma$ 値より判定を行なった。

結果 1, 4機種強条件間には危険率5%で有意差は認められない。強弱条件間には高度の有意差がある。また，弱条件2機種間には有意差がある。この結果は，前報の風合に因する物性値と同様であるが，単独物性値ほど明らかには捕えられない。

2, しわ計量値は洗淨20回までは，洗淨回数に伴って上昇するが，20回で略々平衡に達する。3, しわの計量値と官能検査の評価値との間には相関が認められる。老年的測定によるしわ計量値は，劣化による終合風合量として認められる。4, しわ評価値と面積収縮率との間には相関があるが，洗淨初期より10回までの間に相関が高い。